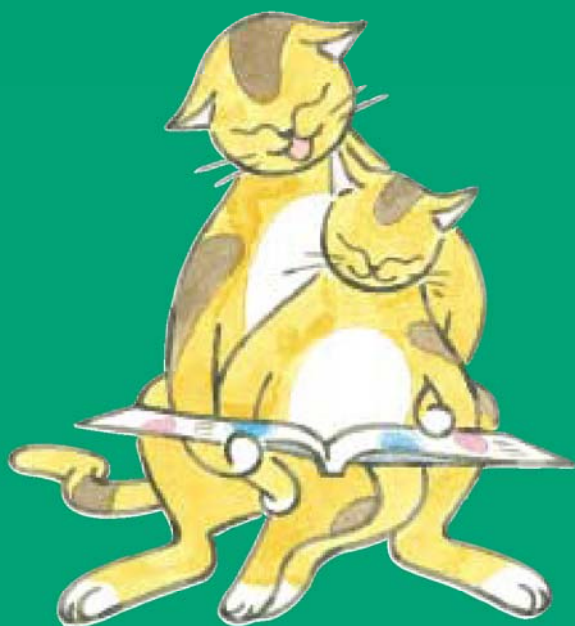


だっこで えほん



米子市立図書館

は じ め に

“三つ子の魂百まで” 昔の人はうまく言ったものです。幼い時に教わったことは、成長しておとなになってからも、毎日の生活のあちこちに現われてきます。生まれたばかりの赤ちゃんの時から3歳ぐらいまでの間に、周囲のおとなたち、とりわけ一番近くで接した人と交わした心のやりとりが、成人になった時の“人となり” を作り上げていくものだということを、永年の間に感じ取って言われた言葉であるといえます。

やさしい心を持った子ども。思いやりの心がある子ども。いろいろな子どもがいます。もって生まれたものだけでなく、3歳ぐらいになるまでに、まわりの大人たちから、小さな心と体が受け取った愛情によって培われたものもたくさんあるはずです。

赤ちゃんの人間形成には、小さな心と体の両方に届く“やさしい手” が必要です。絵本は、乳母車や産衣のように、この“やさしい手” を支えてくれる大切な道具です。このブックリストを利用して、ふれあいの時間を少しでも多く作っていただければと思います。

米子市立図書館長

だっこでえほん!!

暖かくて楽しいふれあいのひとときを…



暖かいだっこによる肌のぬくもりと、優しいことばかけは、赤ちゃんの心と体の成長にとって、とても大切なふれあいです。赤ちゃんは、身近な人といっしょにすることで幸せ、喜び、安心感を抱くとともに、親子の間に愛情と信頼関係が生まれます。



こうしたふれあいは、絵本を介することで自然な形で、簡単に行うことができます。「まだ0歳の赤ちゃんに絵本なんてわかるの?」と思われるかもしれませんが。確かに赤ちゃんにとって絵本はまだおもちゃと変わらないもので、なめたり、かんだり、広げたりして遊びます。

しかし、大人が、赤ちゃんをひざにのせて、絵本を開きながら、リズムのあることばを耳元で語りかけてやったり、向かい合って、優しく歌を口ずさんだり、「いないいないばあ」遊びをしたりすると、赤ちゃんは、それに反応して「キャッキャッ」と声を上げて喜び、また「ウーウー」と語りながら、全身で反応します。

また、赤ちゃんだけでなく大人にとっても、絵本をいっしょに読むことで、気持ちが和み、育児に対する自信も生まれます。肌のぬくもりと、ことばのふれあいを感じながら、絵本を楽しんでみてはいかがでしょうか。



日常生活での体験と絵本での体験

1歳をすぎ、自分で歩けるようになり、言葉が上手になる頃には、身近なものを描いた、短いストーリーのある絵本を楽しめるようになります。

『おつきさまこんばんは』という絵本があります。まんまるおつきさまが、夜空にのぼりました。にっこり笑った明るいおつきさまです。すると雲がでてきて、おつきさまが隠れてしまいます。「くもさん どいて おつきさまの おかおがみえない」と大人が読むと、子どもは目をパチパチさせながら困った顔をして、「ダメダメ」と、手で雲をどけようとします。そして、「ごめん ごめんちょっとおつきさまと おはなし してたんだ」と雲がいつてしまおうと、さも嬉しそうに笑いながら、「コンワ、コンワ（こんばんは）」と手をあげて喜びます。

日ごろ、寝る前にいっしょにおつきさまをみている実体験と、絵本での体験が重なる、心のワクワクするひとときです。



心と心のふれあい

1歳半、2歳、3歳と大きくなるにつれ、子どものほうから、「よんで」と絵本をもってくるようになります。親子で会話を交えながらの絵本タイムもよりはずんでいきます。

そして親は、子どもの考えや好みなどに気づきながら、いっしょになって楽しんだり、時には涙ぐんだり、気持ちを共有しあうことで心と心のふれあいが生まれます。お互いの絆もきっと深まることでしょう。



「よんで！よんで！」

リズムのある言葉、くりかえしのあるお話が子どもは大好きです。心地よさ、安心感を得られるからでしょう。また、くりかえしによって、想像する力を育てているのかもしれません。同じ本を何度でも「よんで！よんで！」と持ってくる子どももいます。その子どものお気に入りの1冊として、何度でも読んであげてください。

どうぞ、1日10分でかまいません。家族みんなで、絵本の時間を楽しんでいただけたらと思います。

えほんの紹介



てん てん てん

わかやましずこ／さく 福音館書店



てんてんてん は てんとう
むし。 ひらひらひらひら は
きいろい ちょうちょ。反対か
ら読んでもおもしろい、ことば
のリズムで楽しく遊ぶ絵本です。
ぽっ ぽっ ぽっ は 何かな？

ごぶごぶ ごぼごぼ

駒形克己／さく 福音館書店



ぷく ぷくん、ど ど どおー
ん。ごぼごぼ、じゃわ じゃわー。
何かが生まれてくるような、躍
動感あふれることばのひびきで
す。そしてあざやかな色づかい。
穴のあいたページが、おもいが
けない色のかさなりを見せてく
れます。

じゃあじゃあびりびり

まっつのりこ／さく 偕成社



しずかに耳をすますと、いろんな音が聞こえてきます。ぶーぶー 車が通ると、わんわん鳴くね。じゃあじゃあじゃあ なんだろう。 ごはんの準備？ それともお風呂？ 毎日のくらしの中でよく耳にする音の絵本。

おつきさまこんばんは

林 明子／さく 福音館書店



夜になったよ、窓からのぞいてみてごらん。おつきさまが出てきたよ。どんな顔をしているのかな？ くもとおしゃべりしているのかな？ にっこり笑っているのかな？

いない いない ばあ

松谷みよ子／ぶん 瀬川康男／え 童心社



ねむい時、ごきげんなめの
時、どんな時でも赤ちゃんは
いないいないばあ が大好き。
ねこと ねずみと のんちゃんが、
みんなといっしょに いな
いないばあ！

たまごのあかちゃん

かんざわとしこ／ぶん やぎゅうげんいちろう／え 福音館書店

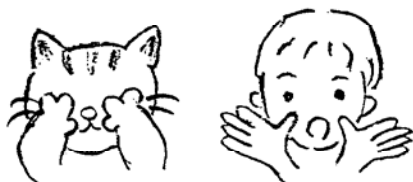


たまごの中でかくれんぼして
いるの だあれ？ でておいで。
ぴっぴっ、よちよち、によろ
によろ、うまれたよ みんな こ
んにちは！

いない いない ぽわ

ねこさんと ねこさんが (手拍子)
いない いない

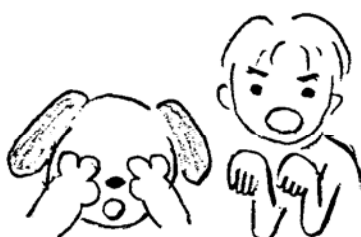
にゃ～



(ねこのひげをつくる)

いぬさんと いぬさんが (手拍子)
いない いない

わんっ



ぶたさんと ぶたさんが (手拍子)
いない いない

ぶう～



(ぶたのはなにする)

やぎさんと やぎさんが (手拍子)
いない いない

めえ～っ



(あごひげをつくる)

おはよう

なかがわりえこ／さく やまわきゆりこ／え グランママ社



あさ、目が覚めたらどうするの？ ねむたいなんて言わないで。おはよう おはよう。朝のあいさつ 元気よく。きょうも一日はじまるよ。他に『おやすみ』もあります。

ありの あちち

つちはしとしこ／さく 福音館書店



ありさんがキッチンを探検します。バナナのすべり台 つるつる。ビスケットをもぐもぐ。あっちでしゅうしゅういうのは何だろう。他にお風呂場を探検する『ありのあわわ』もあります。

でてこい でてこい

はやしあきこ／さく 福音館書店



緑の葉っぱにかくれてる。でてこいでてこい。水色のまん丸にかくれてる。でてこいでてこい。かえるやあひるなどが、切り絵のように次々と出てきます。

かさ さしてあげるね

はせがわせつこ／ぶん にしまきかやこ／え 福音館書店



雨が降ってきましたよ。「ピロリン ポロリン」「ピピ ポポ」「シッポ シャッポ」、ぞうさん きりんさん ありさんの背中に雨が降ります。みんなにぴったりの かさ さしてあげるね。

いただきます

わたなべしげお／ぶん おおともやすお／え 福音館書店



いただきます／ あれ すー
ぷがこぼれちゃった。フォーク
がほっぺにささっちゃった。で
も大丈夫。一人でちゃんと食べ
られるよ。他に『どうすればい
いのかな?』もあります。

もこ もこもこ

たにかわしゅんたろう／ぶん もとながさだまさ／え 文研出版



しーん もこ もこもこ。何
か出てきたよ。ぱく もぐもぐ
つん。今度は何かな。大きく口
をあけて ぱく もこもこ によ
きによき。色・形・ことばの
組み合わせで、たのしい物語が
はじまります。

どうぶつのおやこ

藪内正幸／画 福音館書店



文字のない絵本。子どもたちの大好きな、動物親子のスケッチです。「ウーウー」「マンマ」。きっと赤ちゃんも 動物たちに話しかけてくれるでしょう。他に『どうぶつのおかあさん』もあります。

もう おきるかな？

まつのまさこ／ぶん やぶうちまさゆき／え 福音館書店



うさぎ、ねこ、いぬ、りす、くま、ぞう。動物の親子が すやすや 眠っています。ページをめくると「あー、おきた！」。動物たちの めざまめのしぐさが とてもよく分かります。

みんな おっばい のんでたよ

木坂 涼／ぶん 木村しゅうじ／え 福音館書店



どんぐりたべてる りすも、
にくをたべてる らいおんも、
はっぱをたべてる ごりらだっ
て 「でもねほら あかちゃん
のときは おかあさんのおっば
い こくこくのんでたよ」。

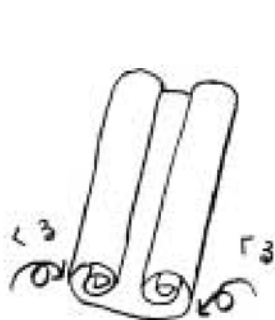
はねはね はねちゃん

なかがわりえこ／ぶん やまわきゆりこ／え 福音館書店



みんなでいっしょに体操しま
しょう。きをつけ、まっすぐ、
いい姿勢。きりんさんと、背伸
びの運動。かめさんとは首の運
動。ぴょんぴょんとんで、おし
まいは？

**タオルハンカチをくるっとまいて、あらふしぎ…
かわいい動物にへんしんします。**



①タオルを図の
ように丸める



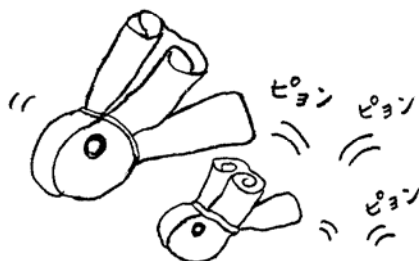
②リボンや輪ゴム
でくくる



③広げて、目玉を
つけて できあがり



つまんで そうさんに



ねかせて 上にあげると
うさぎさんにもなるよ

がたん ごとん がたん ごとん

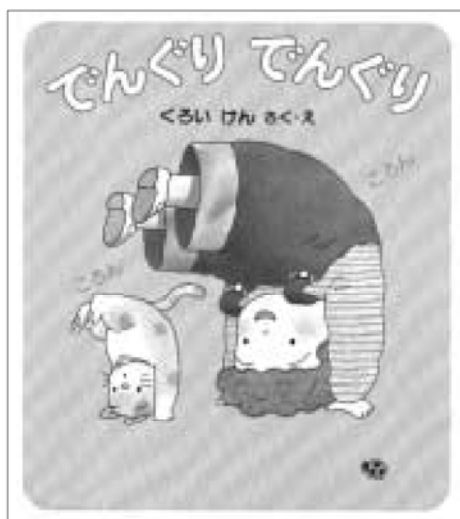
安西水丸／さく 福音館書店



がたんごとん がたんごとん。
小さな きしゃが はしります。
コーヒーカップとスプーンが
「のせてくださーい」。がたんごとん、
ねことねずみも「のせて
くださーい」。がたんごとん、
りんご と ばなな も「のせて
くださーい」。いったい しゅう
てん は どこかな？

でんぐり でんぐり

くろいけん／さく・え あかね書房



でんぐり返って、こんにちは。
でんぐりするたび、友だちにあ
える。あいさつするたび、友だ
ちふえる。なかよくいっしょに
遊ぼうよ。他に『のってのって』
もあります。

のせて のせて

松谷みよ子／ぶん 東光寺啓／え 童心社



まこちゃんが運転する自動車が走ります。初めにうさぎが1匹、くまが2匹、そして最後は大勢のねずみたち。「のせてのせて」と手をあげて乗っていきます。そして真っ暗なトンネルをぬけると…、楽しいあそびの国が見えてきました。

おんなじ おんなじ

多田ヒロシ／作 こぐま社



ぶうとぴょんは、くつもおんなじ。ふくもおんなじ。じどうしゃ おんなじ。おんなじすぎて、ぶつかった。たんこぶ おんなじ。どこか違うところは、見つけれられるかな？

くだもの

平山和子／さく 福音館書店



さくらんぼ、すいか、ぶどう、色とりどりのくだものが、「さあどうぞ」と次から次へと出てきます。「いただきます／＼」とおもわず手を出して食べちゃう親子もいるようです。

にんじん

せな けいこ／さく・え 福音館書店



「にんじんの すきなこ だあれ」 子どもたちの 大好きな動物たちに 順番に聞いていきます。読んだあとで「にんじん すきな うさぎさん みたいなげんきなこ だあれ」と聞けば、「ハーイ」と元気にこたえてくれるでしょう。

りんご

松野正子／ぶん 鎌田暢子／え 童心社



あかいりんご、きいろりんご、ピンクのりんご。色のちがう三つのまるいりんごが、お母さんが皮をむくと、みんな白いりんごになりました。半分に切ってしんをとって、お皿に盛りつけて、さあ、みんなでいただきますしょう。

いぬが いっぱい

グレース・スカール／さく やぶきみちこ／やく 福音館書店



おりこうないぬと、いたずらいぬ。しょんぼりいぬと、げんきないぬ。いろいろな表情をした犬たちが勢ぞろいします。

他に『ねこがいっぱい』もおすすめ。

えんやら りんごの木

松谷みよ子／ぶん 遠藤てるよ／え 偕成社



おとこの子とおんなの子の小さなきょうだい、りんごの木の苗を育てます。めがでて、ふくらんで、みがなったらだれにやろ。わらべうたのリズムで読めるえほんです。

いっしょに うたって！

ましませつこ／絵 こぐま社



お散歩するとき、いっしょに歌おう。おねんねするとき、歌ってね。春にはやさしく「チューリップ」。雨が降ったら「かたつむり」。もみじの季節は「どんぐりころころ」。

げんこつやまのたぬきさん



あがりめ さがりめ

ましませつこ／絵 こぐま社



昔から伝えられてきた手遊びやわらべうたがいっぱい。子どもと身体をふれあって、リズムにのって遊びましょう。自分たちだけの歌を作ってみるのも素敵ですよ。

はじめてであうずかん「とり」

安徳 瑛／え 高野伸二／しどう 福音館書店



子どもたちが初めて出会う、身近な生き物たちの図鑑です。ていねいでわかりやすい解説付き。こんちゅう・けもの・さかな・しょくぶつ 全5巻のシリーズです。

うたえほん

つちだよしはる／え グランまま社



外国の歌、日本の古い歌 新しい歌。童謡・唱歌から わらべ歌まで、誰でもくちずさめる歌ばかり。つちださんの絵がステキです。すべての歌が楽譜付き、みんなでいっしょに歌いましょう。全3巻のシリーズ。

しろくまちゃんのほっとけーき

わかやまけん／作 こぐま社



ほっとけーき が焼けていく様子が、画面いっぱいに描かれたページは、子どもたちも大喜び。おいしそうな音ノ思わずみんなでいっしょに食べたくなってしまう。他に『こぐまちゃんのどろあそび』『さよならさんかく』もあります。

みんなうんち

五味太郎／さく 福音館書店



おおきい うんち、ちいさな うんち、いろんな かたちの、 いろんな におい、おとなも うんち、子どもも うんち。いきもの みんなが うんちすることが わかって、何だか しあわせな気分になれる絵本です。

おやすみなさい コッコさん

片山 健／さく・え 福音館書店



まだ寝ない子だーれ？ お月さまがコッコさんに話しかけます。くもがねむっても、ねないもん。とりがねむっても、ねないもん…。他に『コッコさんのおみせ』もあります。

ちいさなねこ

石井桃子／さく 横内 裏／え 福音館書店



おかあさんねこの見ていない間に、外に飛び出していった子ねこ。小さな子ねこの 大きな冒険に、はらはらしたり、ドキドキしたり。さがしにきた おかあさんねこの登場で、ほっとひと安心。

はっぱのおうち

征矢 清／さく 林 明子／え 福音館書店



はっぱのおうちで雨やどり。もんしろちょう、てんとうむし、あり…虫たちが集まってきます。雨が降ったから、小さな虫さんたちに出会えたんだね。

ずかん・じどうしゃ

山本忠敬／さく 福音館書店



子どもたちは覚えたての車の名前を夢中になって話します。「だんぷかー、ぱとろーるかー、さんすいしゃ、ごみしゅうしゅうしゃ、こんくりーとみきさーしゃ」、かわいらしい指でさしながら。

はけたよ はけたよ

かんざわとしこ／ぶん にしまきかやこ／え 偕成社



たつくんはひとりでパンツをはこうと、かた足をあげるとどてん／ むずかしいね。しりもちをついたままはいてみると「はけたよ／」。ひとりでできるとうれしいね。

ねん ねん ねやまの

ねんねん ねやまの こめやまち
こめやの よこちよを とおるとき

ちゅうちゅう ねずみが ないていた
なんの ようかと きいたらば

だいこくさまの おつかいに
ねんねしたこの おつかいに

ほうやも はやく ねんねしな
だいこくさまへ まいります



どろだんご

たなかよしゆき／ぶん のさかゆうさく／え 福音館書店



べちゃべちゃ にゅるにゅる、
どろのスープにどろのクッキー。
あんここってり どろだんご。
手足も服もどろだらけ。でもみ
んな大好きなどろだんご。作り
方と遊び方を教えてくれる絵本
です。

たんぽぽ

平山和子／ぶん・え 北村四郎／監修 福音館書店



道ばたに咲いている 黄色い
たんぽぽに 目がとまることが
あります。たんぽぽの 花 と
葉 のしくみ。とてもながい 根
のしくみ。わたげ となって と
おくにとぶことのできる 種 の
こと。身近なものの観察から
世界が大きくひろがります。

ぐりとぐら

なかがわりえこ／ぶん おおむらゆりこ／え 福音館書店



子どもたちの大好きなのねずみのぐりとぐら。もりのなかでみつけた大きなたまご。どんな料理ができるかな。いっしょに絵本の中に入り込んでしまいそう。シリーズも出ています。

しょうぼうじどうしゃ じぶた

渡辺茂男／さく 山本忠敬／え 福音館書店



じぶた は古くて小さいしょうぼう車。大きいはしご車やポンプ車がうらやましくてなりません。そんな じぶた が火事で大かつやく。そうだよ、小さくてもがんばれるんだ。

はらぺこ あおむし

エリック＝カール／さく もりひさし／やく 偕成社



たまごからかえったばかりの
あおむしは、いつもはらぺこ。
なんでもたべてしまいます。お
やおや、絵本にまで穴があい
ちゃったよ。どんなちょうちょ
になるのかな。

かばくん

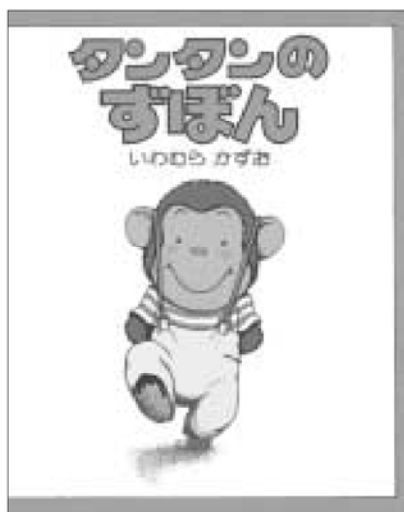
岸田衿子／さく 中谷千代子／え 福音館書店



どうぶつえんのかばくんのゆったりと
した一日。とてもほっとする絵本です。
ほのぼのとして、ユーモラスで、大きな
顔。かばくんが観察する子どもたちも、
とても面白く描いてあります。

タンタンの ずぼん

いわむらかずお／作 偕成社



ぶらんこ、よーよー、でんしゃごっこ。ズボンつりが大活躍。いろんな遊びを見つけるタンタンの想像力が楽しい絵本。『タンタンのぼうし』『タンタンのハンカチ』もどうぞ。

ねずみくんのチョコッキ

なかえよしを／作 上野紀子／絵 ポプラ社



おかあさんが編んでくれたお気に入りの赤いチョコッキ。そこへ動物たちが次々にやってきて「ちょっときせてよ」。チョコッキはどんどんのびていって…、さてどうなることでしょう。

だるまちゃんとてんぐちゃん

加古里子／さく・え 福音館書店



てんぐちゃん のもっている、
うちわやぼうしがほしくなった
だるまちゃん。意外なもので、
てんぐちゃん そっくりに変身
する だるまちゃん。『だるまちゃん
とかみなりちゃん』もどうぞ。

しずかなおはなし

サムイル・マルシャーク／ぶん ウラジミール・レーベフ／え うちだりさこ／やく
福音館書店



ちいさなこえでよむおはなし…、という言葉で始まるは
りねずみ一家のものがたり。二
匹のおおかみの場面ではちょっ
とハラハラ。しーんとした夜に、
読んであげたい絵本です。

どろんこハリー

ジョン・ジョーンズ／ぶん マーガレット・ブレイ・グラム／え わたなべしげお／やく
福音館書店



遊びすぎてどろだらけになったハリー。おふろに入ってやっと家族に気づいてもらえました。遊びの大好きな子どもたちの心をとらえて離さない絵本です。

こんとあき

林 明子／さく 福音館書店



はらはらどきどき、ぬいぐるみの こんと 小さな女の子 あきの ふたり旅。なぜか懐かしいのは、“さきゅうまち”が出てくるからでしょうか。こんの言葉がとてもかわいい。しっぽがなおってよかったね。

ひとまねこざる

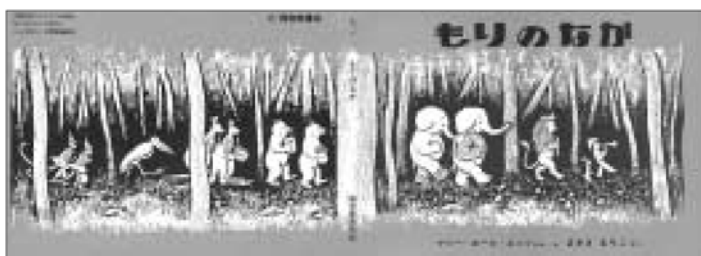
H.A.レイ／文・絵 光吉夏弥／訳 岩波書店



レストランでお皿を洗ったり、高いビルの窓ふきをしたり。動物園をにげ出した、知りたがりやのこざるのジョージがくり広げる、楽しい大騒動の数々。6冊シリーズです。

もりのなか

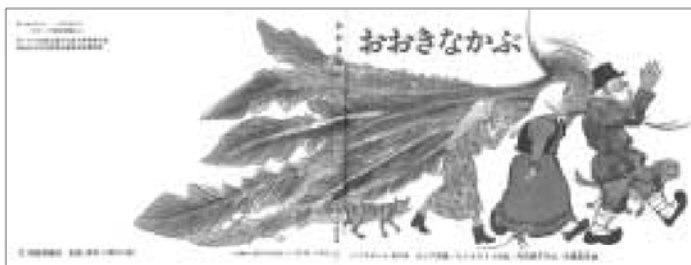
マリ・ホール・エッツ／ぶん・え まさきりこ／やく 福音館書店



カンガルーにライオン、くまや象たちといっしょに ぼく は森へ遊びにでかけます。ぼく がかくれんぼの鬼になって目をあけると…。不思議な夢の世界から、おとうさんの肩車にのって帰ってきます。

おおきなかぶ

A.トルストイ／再話 内田莉莎子／訳 佐藤忠良／画
福音館書店



読みつかれてきたロシア民話。くり返される、ゆかいなかけ声。読み手も子どもたちもいっしょになって「うんとこしょどっこいしょ」。佐藤忠良の迫力ある絵がとてもすてきです。

三びきのやぎのがらがらどん

マーシャ・ブラウン／え せたていじ／やく 福音館書店



三びきのやぎの名前はどれも「がらがらどん」。おおきなやぎのがらがらどんが、谷にすむかいぶつ Troll と戦います。絵本から飛び出してきそうなダイナミックなシーンは迫力満点。北欧の民話です。



タコと皆生海岸

とんとん昔のお話です。よなごの山に住んでいたおサルさんが、いい天気誘われて、皆生の海岸に遊びにやってきました。おサルさんがとても楽しそうに遊ぶのを見たタコさんは、おもわず海の中から砂浜に乗り出して、一緒に遊んだのだそうです。さて、お昼になりました。お弁当の時間です。おサルさんは持ってきたおにぎりをおいしそうに食べ始めました。タコさんにはお弁当がありません。いっしょうけんめい遊んだので、おなかはもうペコペコです。がまんできなくなったタコさんは、その長い足をにゅっと伸ばしておにぎりを一つしっけいし、海のなかに駆け込みました。かんかんに怒ったおサルさん、一計を案じ、寝たふりをしてタコさんの様子を伺いました。タコさんはおにぎりがあんまりおいしかったので、もう一つ欲しくなり、そおと砂浜に上がりました。その時です。寝ていたはずのおサルさんが、パツリと大きな口を開けてタコさんに飛び掛り、足を食いちぎってしまいました。タコさんはびっくりして海のなかへ逃げ返りました。

皆生の浜でおサルさんに二本食べられてから、タコさんの足は八本になったのだそうです。

川上勉彦「米子の民話散歩（広報よなご）」より



「読み聞かせ」それは究極のライブ

野坂 勇作

このごろの子どもはどうなっているんだろう。これからの子どもはどうなってしまうんだろう。こんな不安がぼくの心の中で日ごとにふくらんでくるものですから、その原因というか原点をあれこれと探ってみました。すると、どうしても乳幼児期の親と子の五感の共有という問題にぶつかってしまいます。この五感の共有時期をしっかりと過ごさないと、それは親子の信頼関係のそう失をまねき、ひいては社会とのかかわりの希薄さにつながっていくのです。

では、その五感の共有をしっかりとつにはどのようにすれば良いのかといいますと、もちろん色々考えられますが、今の日本の日々のライフスタイルの中で最もナチュラルな方法は絵本の「読み聞かせ」です。それもだっこして絵本を読むという手法。こうすると、絵本の絵を互いに見合えることはもちろん、文章を読むその声が耳から、そして振動となって体から体へ。息づかいや心臓の鼓動を感じ合いながら親のにおい、子どものにおいがお互いのアロマテラピーとなって癒し合いの時となり、それが五感の共有ということになるのです。

話は少しかわりますが、優れた絵本の文章には音楽性があります。くり返し読んでいくうちにリズムが生まれ、メロディアスになり、まるで歌でも歌っているような気分になります。とするならば、読み手である親はミュージシャン、聞き手の子どもはその大ファンということになりますね。

絵本の「読み聞かせ」というのは、親と子が一体となってつくりだすマンツーマンの究極のライブというわけです。

米子市在住 絵本作家

（この文章には著作権が設定されていますので、
複写ならびに転載される場合には著作者である
野坂勇作の許諾が必要です。）

さ く い ん

あ

あがりめ さがりめ	22
ありのあちち	10
いただきまあす	12
いっしょに うたって！	20
いない いない ばあ	8
いぬがいっぱい	19
うたえほん	23
えんやら りんごの木	20
おおきなかぶ	35
おつきさまこんばんは	7
おはよう	10
おやすみなさい コッコさん	24
おんなじ おんなじ	17

か

かさ さしてあげるね	11
かばくん	30
がたん ごとん がたん ごとん	16
くだもの	18
ぐりとぐら	29
こんとあき	33
ごぶごぶ ごぼごぼ	6

さ

三びきのやぎのがらがらどん	35
しずかなおはなし	32
しょうぼうじどうしゃ じぶた	29
しろくまちゃんのほっとけーき	23
じゃあじゃあびりびり	7
ずかん・じどうしゃ	26

た

たまごのあかちゃん	8
だるまちゃんとてんぐちゃん	32

タンタンのずぼん	31
たんぽぽ	28
ちいさなねこ	25
でてこい でてこい	11
でんぐり でんぐり	16
てん てん てん	6
どうぶつのおやこ	13
どろだんご	28
どろんこハリー	33
な	
にんじん	18
ねずみくんのチョッキ	31
のせて のせて	17
は	
はけたよ はけたよ	26
はじめてであうずかん「とり」	22
はっぱのおうち	25
はねはね はねちゃん	14
はらぺこあおむし	30
ひとまねこざる	34
ま	
みんなうんち	24
みんな おっぱい のんでたよ	14
もう おきるかな?	13
もこ もこもこ	12
もりのなか	34
ら	
りんご	19

あ と が き

米子市立図書館では、2003年7月から、乳幼児健診時に、絵本の読み聞かせを始めました。絵本の大切さやその魅力を、子育て真最中の皆さんに知ってもらおうと思い、このブックレットを作りました。

慣れない編集作業のため、多くの方から助けていただきました。とりわけ、米子市在住の絵本作家・野坂勇作さんには、すばらしい表紙と作家ならではの言葉を頂戴し、感謝しております。

紹介したい絵本は、もちろんこれだけではありません。図書館に出かけて、もっとたくさんの絵本に出会ってほしいと思います。

だっこでえほん

表紙・タイトル デザイン／野坂勇作

2003年 7月17日 第1刷

2007年 10月31日 第2刷

編集／発行 米子市立図書館

〒683-0822

鳥取県米子市中町 8

Tel 0859-22-2612

Fax 0859-22-2637

ホームページ <http://www.yonago-toshokan.jp>

E-mail info@yonago-toshokan.jp

印刷 米子ワークホーム

